

定められた範囲で忍容できるかぎり最大の用量の
ACE-I (不忍容時 ARB) と β 遮断薬

■ クラス I
■ クラス IIa

症状が残存かつ
LVEF \leq 35% のまま

No

Yes

ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬を追加する

Yes

症状が残存かつ
LVEF \leq 35% のまま

No

Yes

ACE-I/ARB に
忍容力がある

洞調律
QRS \geq 130ms

洞調律
心拍数 \geq 70 bpm
※日本では心拍数 \geq 75 bpm

ACE-I/ARB を
ARNI へ置換

心臓再同期療法適応の
有無を評価

イブブラジン

パラダイムシフトです！長い間、アンジオテンシン変換酵素阻害薬（ACEI）（不忍容時はアンジオテンシン受容体拮抗薬，ARB）と β 遮断薬の併用が左室駆出率の低下した心不全（HFrEF）に対する薬物治療の定番でした。しかし最近、新たな心不全治療薬が次々に登場しています、アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬（ARNI）やHCNチャネル遮断薬（イブブラジン）です。図は、先行してこれらを使っているヨーロッパにおけるHFrEF治療のガイドライン（Ponikowski P, et al. Eur Heart J 2016）ですが、本邦でもこれらの治療薬が使用可能となりました。図にはありませんがSGLT II 阻害薬も心不全治療薬として使われるようになっていきます。

3月に入り、日によって寒暖の差が激しく体調を崩される方も周りに多くおられました。地域医療機関の先生方は、いかにお過ごしでしょうか。緊急事態宣言が解除されましたが、依然として、新型コロナウイルス感染症で地域医療機関の先生方もその対応に苦慮されていることとお察しします。

循環器センターは、これまで心筋冷凍焼灼術（クライオアブレーション）、経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）、大阪心不全地域医療連携会、経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）、補助循環用ポンプカテーテル（インペラ IMPELLA）、低侵襲手術（MICS）、ロボット支援下心臓手術など超高齢化、低侵襲治療などの時代のニーズに迅速に対応できるよう心がけてきました。2021年度は、僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（MitraClip）や潜性脳梗塞に対する経皮的卵円孔開存閉鎖術の開始予定です。

今回のVol.47では、2020年における循環器センターの実績をご案内いたします。今後も、これまで同様地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対しても最先端の循環器医療を身近に提供できるよう、なお一層努力したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

循環器センターのHP (<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>) も是非閲覧ください。

大阪市立総合医療センター 循環器センター長

循環器内科部長

成子 隆彦

特集：循環器センター 2020年を振り返って

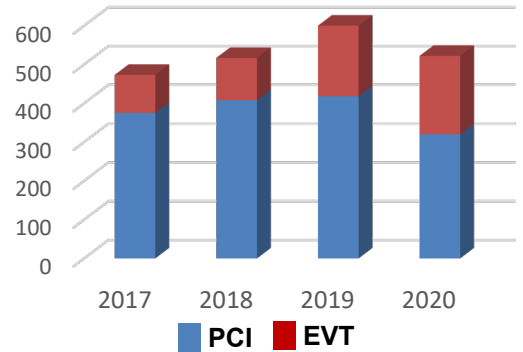
循環器内科の2020年の実績

成子隆彦がセンター長として循環器センターを運営しています。昨年は重症コロナ感染症の影響で部門により症例数は減少しています。

今後も地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対してもレベルの高い医療を提供できるよう、なお一層努力したいと思っております。

心臓カテーテル部門

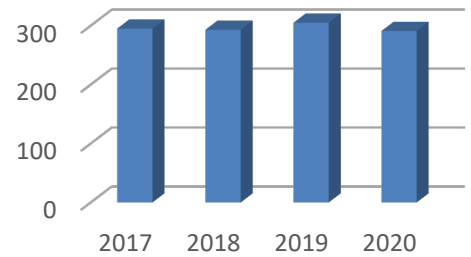
成子、松本、仲川、齋藤、藤澤が中心となって行い、心臓カテーテル治療(PCI)は、昨年より減少していますが、下肢治療(EVT)は増加しています。虚血評価目的のFFR(冠血流予備量比)を118例施行、心筋生検を38例施行しています。2016年4月より開始しました経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)は52例施行しています。また、閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的な中隔心筋焼灼術(PTSMA)を5例施行し良好な成績を収めています。



不整脈治療部門

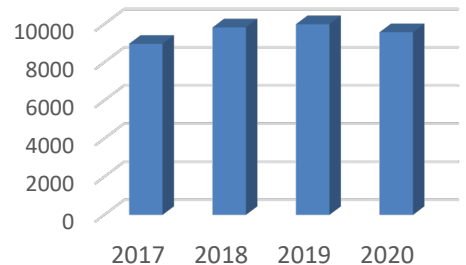
占野、林、田村が中心となりアブレーション治療の件数は昨年と比べ、ほぼ横ばいで291例施行され、心房細動のアブレーション治療は221例施行されました。心臓デバイスは、永久ペースメーカーや植え込み型除細動器、両室ペーシングを含め計147例を施行しています。また皮下植え込み型除細動器は5例、リードレスペースメーカーの植え込みは、4例に植え込みを施行しました。昨年10月から開始した左心耳閉鎖術を3例施行し、合併症なく留置に成功しています。実績の詳細は、別紙をご覧ください。

アブレーション治療



心臓超音波検査部門

阿部、松村、野村と生理検査技師が中心となって頑張ってくれました。昨年の成人心臓超音波検査数は、コロナ禍の影響で9578例、経食道エコー検査も323例と減少していますが、弁膜症については、他のどの施設よりも精度の高い診断を行っていると思っております。



循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	田村 (ペースメーカー)	仲川	成子
午後	阿部	松村			成子
	占野(ペースメーカー)				林

地域初診外来

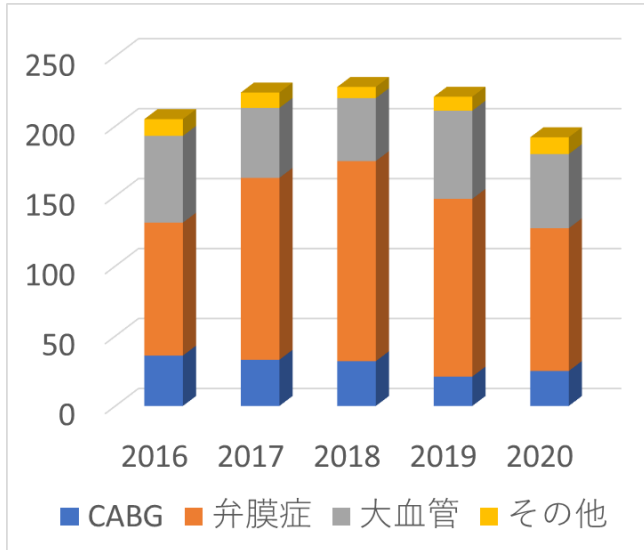
	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本
					林(不整脈)
午後		齋藤(末梢動脈)	占野(不整脈)	仲川(肥大型心筋症)	松本(TAVI)

心臓血管外科の2020年の実績

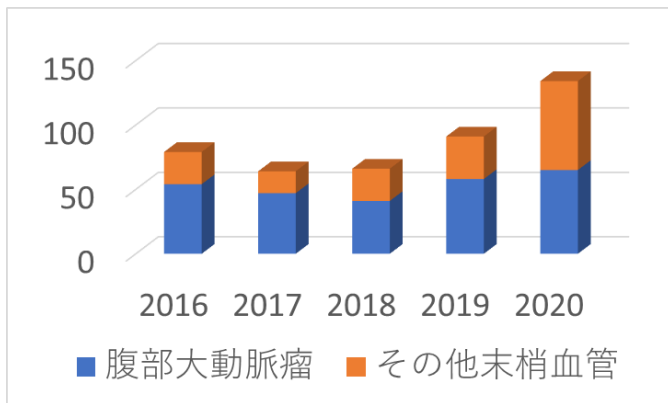
当院がコロナの最前線病院としての役割を果たすため、心臓大血管の手術件数は、例年より1割5分減となっています。その中でも、**低侵襲手術**が浸透し、大動脈弁狭窄症に対する**経カテーテル大動脈弁置換術 (TAVI)**は、大動脈弁狭窄症手術の7割以上、52例に行い、その他の疾患にも低侵襲手術 (**MICS**)をこの2年間に45例行っております。さらに**ロボット支援下心臓手術**も導入されました。

大動脈瘤や末梢血管に対してはカテーテル治療が増えています。**下肢静脈瘤レーザー治療**を開始しました。静脈うっ滞性皮膚潰瘍や虚血性壊疽の治療を行っています。

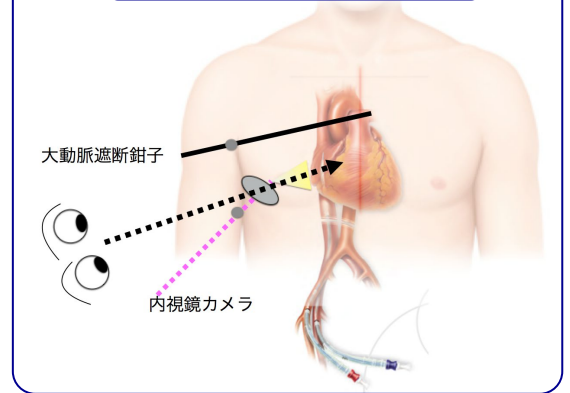
最近5年間 心臓大血管手術数



最近5年間 末梢血管手術数



内視鏡下心臓手術 (MICS)



ロボット支援下心臓手術



下肢静脈瘤レーザー治療



心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	村上	阪口	下肢静脈瘤外来	尾藤
午後	青山	村上 (ロボット手術外来)	阪口	青山	尾藤

今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。しかし、コロナ禍によって多くの学会や研究会が中止となり、教え教えられ議論することによって医療を高めようといった機会が突然なくなりました。そのような状況の中で、やっと最近になって、学会や研究会がそれぞれ工夫した方法で開催されるようになってきました。左上は、日本循環器学会総会で藤澤医師が、右上はくすのき・さつき循環器カンファレンスで村上心臓血管外科部長が、左下は循環器フィジカルイグザミネーション講習会で阿部医師が、右下は心エコー検査スキルアップセミナーで阿部医師と森下技師が、それぞれWEBで発表や講演を行っているところです。近い将来対面で議論しながら勉強できることを夢見ながら、コロナ禍中もWEBを利用して発信を続けたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。